

『時事直言』 No.1808 2026年6月4日 国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[instagram] [t.masuda2026](https://www.instagram.com/t.masuda2026)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

トランプ・ネタニヤフ猿芝居の功罪

アメリカとイランの停戦交渉で暫定合意の可能性が出てきた矢先の6月1日、イスラエルがレバノンのヒズボラを猛攻撃した為、イランは停戦合意違反だとしてアメリカとの交渉をボイコットした。

トランプは激怒してネタニヤフ首相に電話し、(忠実に翻訳すると)「おい、お前何やってんだ！おめーは心底狂人だ、俺がいなければお前は刑務所行きだったのを俺が救ったんだぞ！分かってんのか！この恩知らず野郎、今世界のみんながお前を憎んでいる、そのせいでみんなイスラエルを憎んでいる」、ネタニヤフは、「分かった、分かった」と言いながら、ニヤニヤしていた。

この電話会話はホワイトハウスの二人の高官が Axios(アクシオス)にリークしたことになる。

大騒ぎになり、ホワイトハウスはリークした者を FBI が調査すると言っているが、調査はない。

なぜなら「やらせ」だからだ。

重要なのはリークの目的である。

アメリカの情報機関からメディアに至るまで、トランプがイラン戦争に踏み切ったのはネタニヤフに巧みに誘導されたからだということになっている。

つまりアメリカはイスラエルに利用されたというわけである。

トランプとホワイトハウスの狙いは、ネタニヤフを怒鳴りつけて必死にイラン戦争停戦に努めているトランプの姿を見せるつける為である。

せっかく暫定合意にこぎつけたのにネタニヤフに妨害されたことにして、イランの方が交渉を停止したことにして戦闘準備の為の時間稼ぎをしているのである。

ただその結果今までアメリカとイスラエルが停戦条件から外していたヒズボラをイランが主張してきた通りのイランのカードにしてしまった。

トランプの本音はネタニヤフと同じ「イランの無条件降伏」である。

イランの核計画に使われる可能性がある 450 キロ相当の濃縮ウラン、極超音速ミサイル、ヒズボラ等イラン傘下の軍事組織ならびにホルムズ海峡はイランの「核心的主権」である。

「イランの主権が存在する限りイスラエルの安全なし」なのである。

私は常に言ってきた、「イスラエルとイランは不倶戴天の敵同士である」と。

イスラエルのイランとイラン傘下の軍事組織へのいかなる軍事行動も、例外なくすべて事前にトランプに報告されることになっている。

これがトランプの対イスラエル軍事支援の大前提であり、アメリカとイランの停戦交渉からイスラエルを除外した条件でもある。

汚い言葉を並べ立て、ネタニヤフを罵倒するトランプを見ていると、ずいぶん芸達者になったが、まだ間抜けなところが目立つと感じた。

ネタニヤフへの激怒、罵声会話のリークの仕方が、いかにもわざとらしい。

トランプとネタニヤフが心の中で停戦期間が延長出来てよかったねと言っているのはまだリークされていない。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。